

親鴨だより



2012年 5月号
第266号

世界がどう変化しようと、変わらず巡ってくる季節の移り変わり、ここに自然の偉大さを改めて実感します。5月は「目には青葉、山ほととぎす、初鯉」と江戸時代、山口素堂が詠ったように清々しい季節到来、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。親鴨会本部、各支部とも、ほぼ4月に本年行事計画が承認され、いよいよ本格的に行事が開催されています。各行事に参加してお互い旧交を温め、親睦を重ね、心豊かな毎日を過しましょう。

さて、昨今の社会、経済状況は昨年3月の東日本大震災、タイの洪水、EU 経済危機による世界経済の停滞から生産体制の回復、経済好転の兆しはあるものの依然として深刻な状況が続いております。けれども私達の身近に起こった東日本大震災は、被災された方々の絶望感、しかしそこから力強く立ち上がろうとする不屈の精神。そして家族、仲間、地域社会・・・との絆の大切さを改めて知らされました。昨年の世相を漢字一文字で表すと「絆」であったことがそれを物語っています。災害をプラスに変えた絆を心にしっかりと受け止め前進したいものです。

一方、女子サッカー「なでしこ JAPAN」W 杯優勝、スーパーコンピュータ「京」演算速度の世界一、H2A ロケット打ち上げ成功率 95%など明るい分野も多く、未来を信じて元気で、明るく、楽しく進まれるよう願っています。

野洲支部は現在 197 名の会員数を誇り、昨年の年間行事計画も予想通りの活況を呈し盛会裏に推進することが出来ました。今年度も全ての行事計画が会員の皆様に的確且つタイムリーに情報を発信できるよう、ホームページの内容も必要に応じて改訂に着手。最近では人気の高いゴルフを親鴨会野洲支部ホームページに加えて、ゴルフ愛好者が日常のゴルフが円滑に出来るように予約状況の便宜を図っています。今年度は「ボウリング」を新たに行事に加え推進する予定です。野洲支部では事業所がなくなって久しいですが、会員相互の関係は親鴨会野洲支部行事を通して益々堅固なものになっています。今年も各行事にご参加戴き、一層の「絆」を深められるよう期待します。

「親鴨だより」5月号をお届けいたします。

野洲支部：柴原 喬